



# 松田権六の仕事場

## 関連資料展示

会期 2025.12.9 -2026.3.1

### 松田権六の道具

#### 左ケース

- 1：鯨箆（くじらべら）
- 2：中尊寺金色堂の解体修理の時に出てきた平安時代の  
刷毛を模して作られた刷毛
- 3：檜の皮で作った箆
- 4：上塗り専用の刷毛
- 5：地塗り専用の刷毛
- 6：細く塗るための刷毛
- 7：小刷毛
- 8：あしらい毛棒（けぼう）・・・蒔絵粉を扱うための筆の一種
- 9：鼈甲製の蒔絵筆用の洗い箆
- 10：大小の針金で作られた「引掻き」用筆
- 11：ぶんまわし・・・コンパス
- 12：犬牙（けんき）・・・柄の先に犬の牙を取り付けた道具
- 13：鯛牙（たいき）・・・柄の先に鯛の牙を取り付けた道具
- 14：各種蒔絵筆
- 15：粉筒（ふんづつ）
- 16：塗師刀（ぬしがたな）
- 17：槍鉋（やりかん）
- 18：彫刻刀や各種の切出小刀

### 遺愛の品々

- 19：フェルト帽
- 20：腕時計
- 21：筆記用具
- 22：眼鏡

### 粉筆笥の引出

#### 中央ケース

- 23：粉鎮（ふんちん）  
・・・蒔絵用の金銀粉を入れた粉包みを押さえるために用いる重し
- 24：粉匙（ふんさじ）・・・蒔絵用の金銀粉をすくうのに用いる小さじ
- 25：鳥軸製粉筒
- 26：爪盤（つめばん）・・・蒔絵を描く際に漆をのせておく小さなパレット
- 27：あしらい毛棒
- 28：払い毛棒

### 特集展示：季節を告げる

#### 中央ケース

- 29：松田権六《銀杏蒔絵盆》1984年
- 30：山口松太《油衾堆錦錦秋短冊箱》2020年
- 31：荒川豊蔵《志野練上手茶碗 霜朝》1949年
- 32：森陶岳《備前茶碗 夕雲》1982年
- 33：加藤唐九郎《志野茶盃 雪の朝》1971年

#### 右ケース

- 34：黒澤千春《銀平文螺鈿箱 薄氷》1986年
- 35：田口善国《ススキ蒔絵棗》1990年
- 36：田口義明(善明)《秋蒔絵棗》2002年
- 37：田口善国《森の空蒔絵大棗》1983年
- 38：松田権六《松文蒔絵平棗》1969年
- 39：北村昭斎《玳瑁螺鈿小箱 みのり》1988年

### 蒔絵で使われる素材

- 40：夜光貝
- 41：アワビ
- 42：メキシコアワビ
- 43：貝の真珠層部分を薄くはいだもの
- 44：卵殻(ウズラ)
- 45：象牙
- 46：平文用の各種素材